

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日

平成23年5月16日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4671100214号
法人名	有限会社グループホーム加世田
事業所名	グループホーム加世田
所在地	鹿児島県南さつま市加世田本町11-2 (電話) 0993-52-6066
自己評価作成日	平成23年4月25日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48-13
訪問調査日	平成23年5月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆったりとして開放的な空間がひとつあげられます。居室や廊下、トイレなどが広く、例えば入居後に歩行が不自由となって歩行器や車いす使用の状態になっても、他所へ移らずにここで生活を続けることが選択できます。これを支援する当事業所のスタッフは、認知症を抱えた利用者様の生活環境が変化されると心身にどのような影響がありうるのかをよく理解しており、日々1人ひとりの心身の状態を細かく観察し共通認識し健康に関する予防ケアなどをよく学習しております。いろいろと課題も多くありますが、開設後7年9ヶ月となる当事業所の利用者様は全体として戸惑いの表情がなく慣れ親しんだこの場所で毎日を穏やかに過ごされています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

旧加世田市の中心街にあり、商店街の一角に立地している。以前スーパーだった建物を改装しており、広々とした造りは廊下やトイレなど車イスでも充分に対応でき、日常のホーム内移動がリハビリを兼ねた適度な運動に繋がっている。3ユニットではあるが、各ユニットごとが独立して分かれており、知り合いをたずねて行き来する利用者もいる。

ホームは、医療連携体制が充実しており、協力医療機関とは24時間オンコール体制が取られ看護師も派遣されて利用者の健康管理を行っている。家族の安心と夜勤帯の職員の不安軽減にも繋がっている。

日々の生活も利用者が寂しさを感じないように職員は利用者とのコミュニケーションを大切にして常に寄り添い、視線を合わせて会話をするなど努め、特に夜間帯の不安を取り除くように、就寝時は利用者一人ひとりと必ずスキンシップや会話を交わして安心して休めるように配慮している。

3ユニットと大所帯のグループホームであるが職員間のコミュニケーションが図られて離職も少なく、それぞれがスキルアップを目指して資格取得にチャレンジするなど自己研鑽意欲も高い。

今後も更に充実したグループホーム運営が期待される。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	事業所理念は理想的な内容につくられている。毎日の業務には、理念を確認しなおす機会（課題）も多く、ミーティングや申し送りの場を使ってみんなが気付いたことを話しあうように努めている。	地域密着型サービスとしての意義を踏まえた理念を作成して、理念は玄関に掲示している。常に、利用者が寂しさを感じないようなケアを目指すことは、職員にも周知徹底している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	清掃作業やお祭りなど、地域の方からも参加の呼び掛けをよくいただいている。地域の公民館とも定期的に交流しており、管理者はグループホームを代表して敬老会などの集会にお呼び頂いている。	自治会に加入し、職員が清掃活動等に参加したり、市の日はホーム前にコーナーを設けて利用者と共に市を楽しんでいる。地域のボランティアグループ・婦人会の慰問・地元高校の実習の受け入れなどもしており、積極的に交流に努めている。また、近くの高齢者サロンに参加する利用者もあり、昔なじみの友人たちとの交流もある。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	平成22年度には保健所の依頼を受け地域の公民館向けに認知症介護教室を主催で4回行なった。その他にも金融機関やボランティア団体等を対象にして認知症サポーター養成講座を数回行なってきている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、かねてより当施設の利用者やサービスの実際については報告を行っている。この外部評価の結果が出た際には、その内容の公開と改善に向けての話し合いが行なわれるようにしている。	公民館主事・区長・家族代表・職員・行政等の参加を得て概ね2ヵ月に1回開催している。ホームの現況報告、行事報告が行われている。議事録が作成されているが、話し合いの内容までは明記されていない。	運営推進会議は2ヵ月1回開催されているが、今後は議事録の整備とホームのサービス向上に活かされるような更に充実した内容の運営推進会議になるように期待したい。

鹿児島県 グループホーム加世田 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>医療費に関する制度や低所得の利用者に関する制度など、介護保険の窓口に限らず様々な窓口と相互に関わっている。それぞれの担当者の協力もあって、より良いサービスの質の向上につなげられている。</p>	<p>生活保護受給者もおおり、日頃より連携を図り、協力関係を築くように努めている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>買い物の希望や自宅へ帰りたいなどの要望・行動を確認した際にも極力同行して希望に応えるようにしている。</p>	<p>毎年、定期的に勉強会を兼ねて話し合いを行っている。日中は施錠などせず安全で自由な暮らしを支援している。不意に外出する利用者には職員がさりげなく着いて行き見守っている。また、近隣の商店街の方々の協力もあり、事故防止にも繋がっている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>外部で行なわれる研修には積極的に参加し、当事業所内においても常々、虐待防止や倫理なことをテーマにして勉強会を行ってきている。全職員が強い意識を持って虐待防止を心がけている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>当事業所においても1名の入居者が制度の利用を行なっている。その方自身のデリケートな部分、例えば家族との関わりや今後についてなど難しい面もあるが、みんなが理解をもって対応をしている。</p>		

鹿児島県 グループホーム加世田 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	なるべく契約書は説明の後に自宅へ持ち帰っていただき、よく確認してもらってから同意を頂くようにしている。退去の際にも、利用者、家族と共に転居先の担当者と十分な引継ぎを行なっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に利用者の意見を汲み取る事が出来るよう心がけている。出てきた意見については、その内容に応じて上司への報告や申し送りでの伝達にするなどしてサービスの質の向上につながるよう心がけている。	日常の面会時や電話連絡の際に職員が家族から意見、要望を聞き出すようにしている。また、毎月「近況のお知らせ」を作成して本人の写真入りで家族に送付している。利用者からは日常の会話の中で意見、要望を引き出すようにしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや勉強会、連絡帳の活用ほか幹部職員による毎月の運営会議など代表者ならびに管理者と現場との間の意思疎通は良くとられている。	職員間で共有すべき内容については連絡ノートを活用や朝、夕の申し送りを利用して利用者の情報の共有を図り、職員の意見等も表せるようにしている。出された職員からのアイデアや提案など可能な限り実現に向けて話し合われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者及び管理者は、職員個々の特性を良く理解する事に努めている。それぞれの特性や事情に応じて勤務調整をし、普段から何気ない事にも、心配り、声掛けを行なうことを心がけている。		

鹿児島県 グループホーム加世田 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>定期的に行なう事業所内研修や事業所外の研修（他施設実習を含む）にも、全職員をその内容に応じて参加させている。最近1年間では、介護支援専門員を2名が受験、介護福祉士を5名が受験している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者は常に近隣の同業者と連絡を取り合っている。職員も認知症介護実践者研修の受け入れや他施設の訪問などを通して、自らのサービスの質を見つめなおす機会としている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>サービス利用の開始前には、必ず本人が困っている事や不安なこと、求めていることを確認している。本人との会話だけでは不足の部分もあるので、家族や関わりのある関係機関などからも情報を戴いている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>サービス利用が開始される前には、殆どのケースで先ず家族のほうから相談に来られる。当然、家族の思いや立場なども考慮した上で相談を聴き、受け止めることとしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談者の協力者、例えば担当されているケアマネなどを確認し、必要があれば担当ケアマネと連絡を取って他サービス利用などを案内をしたり手続き支援するなど行なっている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>職員が毎日つける記録には「役割り活動」との項目があって互いが意識を持っている。昔の暮らしぶりや物事の言われや呼び名など面白く語って頂いている。一緒にそばを打ったりもしている。</p>		

鹿児島県 グループホーム加世田 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月写真付きでお送りしている「近況のお知らせ」はなかなか立ち寄れないご家族や県外のご家族に好評を得ている。電話も積極的に活用しており、幾らかでも淋しさが紛らわされるように心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	空き家になっている自宅への同行をたまに行なうが、その際は家の中で共にゆっくりしたり、隣り近所の方への挨拶を行ったりしている。お墓参りも、家族だけに頼れない場合は職員が同行を行っている。	希望により、自宅訪問や墓参り、美容室、買い物などに連れて行き、これまでのなじみの人や場との関係が途切れないように支援している。また、サロンに出かける利用者もおり、友人たちとの交流が続くように支援している。ホーム内に知り合いがいる利用者は共にユニットを行き来しておしゃべりを楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ひとつの例であるが、心身の不調が訴えられていた方へ他の利用者のお世話をお願いしたところ、その方自身の不調の訴えが殆ど聞かれなくなった。その様なケースは複数ある。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院によって契約が終了したケースがあったが、花見やドライブなど病院との連絡調整によって案内を行ったりしている。契約終了時には予想が困難であったがその後再契約につながったケースもある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス利用者との普段からの会話の中で、不満や希望、意向の聞き取りを心がけている。そこで得られた情報は申し送りやケアプランの内容につなげられている。	会話の中から思いや意向を把握し、本人本位に検討している。困難な場合は表情、言動などから把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用開始前には、本人や家族、担当されていた関係機関からの情報収集に努めている。その後も、何かの機会があれば、それとなく様々な情報を職員が共有できるよう心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全スタッフが利用者それぞれの現状をことこまかく、そして統一された認識がされるように、事業所独自に記録様式の工夫を行なっている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の記録には全スタッフや家族らによって、様々な場面での観察などが記録されている。介護計画はこれらの情報をもとに作成を行なっている。	本人、家族の思いや希望、職員の意見など反映した本人本位の介護計画を作成している。地域密着型サービスとして、サロンへの参加などのサービスを取り入れた利用者もいる。日々のサービス内容の評価と月間評価を行ってきめの細かいモニタリングで現状に即した介護計画を作成している。	

鹿児島県 グループホーム加世田 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「生活記録」「支援経過記録」「ケアプラン実施表」を一冊の個別ファイルに準備し、毎日の記録がされている。これらが、介護計画の見直しに活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員の中には、病院や在宅介護支援センター、特養などに勤めた経験を持つものが多く在籍している。それぞれが、必要時にサービス利用者や家族の相談を聞いたり、関連する機関を紹介するなどしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	通院リハビリが必要な方、認知症専門医の受診とデイケア必要な方などそれぞれに対応がとれている。毎月第二火曜日はボランティアグループによる演芸大会が実施されている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者全体ではリハビリ科、眼科、耳鼻科、歯科などいくつものかかりつけ医を頼っている。家族とも協力し合う中で、職員が同行を行ったり、受診時間の調整を病院との間で行ったりしている。	本人、家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。ほとんどの利用者の受診同行を行っており、ホームとかかりつけ医との連携を図っている。受診後の結果報告は家族に随時行っている。医療連携体制により協力医療機関とは24時間オンコール体制で本人、家族の安心につながっている。	

鹿児島県 グループホーム加世田 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当事業所の経営者は医療機関の経営にも携わっており、特定された1名の看護婦が派遣されている。サービス利用者や職員が抱える不安の相談相手となり、また病院との橋渡しの役割りを担ってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	サービス利用者の入院当初には必ず入院計画（治療計画）を確認するようにしている。家族を交え3者によってできるだけ早期に退院できるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	サービス利用開始時の段階で可能な限り責任を全うすることを約束している。現実には様々な状況と状態があつてそれぞれに家族の要望などがあつたがその都度に職員が一丸となつて、医療機関や特養の協力を頂き、対応にあつてきた自負心を持っている。	重度化や終末期に向けたホームの指針は重要事項にも明記しており、入居時に家族の希望を聞いてホームの方針を説明している。職員も方針は共有しており、勉強会等を設けて支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	先日には地域の消防署を勉強会に招いて初期対応の指導を受けている。ミーティングなどでも、緊急時に備えたテーマで語られている。		

鹿児島県 グループホーム加世田 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の災害訓練を実施している。その内1回は夜間に行なっている。地域の方たちも数十人の方が協力をして頂いている。	定期的に避難訓練を行っている。近隣とは避難方法等も話し合われており、協力体制が構築されている。スプリンクラーも設置されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>時には慣れによる遠慮のない言葉かけや礼儀を欠くこともある。その直後や毎月実施するミーティングの機会を使い、全員で見つめ直しを行っている。今後も常に自戒を私たちは関わっていく。</p>	<p>利用者を人生の先輩として敬う気持ちを持ち、言葉かけに配慮している。定期的に接遇の研修も行って、職員の資質の向上に向けて取り組んでいる。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>普段より、その時に着たい衣服や食べたいものなどを尋ねるように心がけている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>中には自宅と違って不自由を感じておられる方もいると思う。常に私たちの課題として受け止めている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>髪のカットは本人の希望や家族との連絡によって数カ所の美容室が利用されている。中には定期的に髪染めをされる方もいる。</p>		

鹿児島県 グループホーム加世田 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の苗を一緒に植え成長を共に楽しんだり、野菜の皮むきを手伝ってもらうなどしている。そのあとは全体で笑顔や会話のある食事を楽しんでいる。片付けも個別の状態に応じてそれぞれにお願いをしている。	家庭菜園でできた野菜の収穫を楽しんだり、もちつきやそば・うどん打ちなどを利用者に教わりながら行っている。また、個々の力を活かしながら、職員と共に準備や片づけなど行っている。ときには、ユニットごとに近所のうどん屋に出かけることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	咀嚼や嚥下の状態、運動量やリズムなどみんなそれぞれである。食器の選定やミキサーの活用など個別の対応をとっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全体的にADLの重度化が進行してきた中で口腔ケアの必要性は非常に高まっていると認識している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	職員全員で排泄用品の使用についての個別の見直しを繰り返してきている。数名の方がリハビリパンツから布製のパンツ使用に変更されてきている。もちろん排泄リズムなどは個別に把握し個別の対応を図っている。	基本的にはおむつ使用はしない方針で排泄の自立を支援している。入居時、おむつだった利用者が職員のかまめな声かけ誘導でトイレでの排泄に移行していったケースも多く、職員のやりがいにも繋がっている。	

鹿児島県 グループホーム加世田 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	数年前は重度の便秘だった方がだいぶ改善されている。記録による状態把握や水分補給・運動の促進、乳製品の活用など必要な方には毎日行なっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	お風呂は毎日準備されている。毎日を希望されない方もいるが週に3回以上は支援できている。	希望があれば毎日の入浴も可能で個々に応じた入浴の支援を行っている。入浴の時間帯も午前・午後・夕がたと個々の希望で支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別によって夜間の過ごし方は特徴があり、職員はそれぞれに応じて対応をとっている。昼食後や入浴後にちょっとした休息や昼寝をされる方もいるが、その場所や時間の程度など心配りをするよう心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全スタッフはよく理解している。便秘薬や精神科処方薬などはその用量や必要性など事細かな記録をもとにかかりつけ医との慎重な検討を重ねている。		

鹿児島県 グループホーム加世田 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活記録にはその日の「役割り作業」「活動」の項目がありその日毎に意識を持って確認を行っている。身体の不調や閉塞感などが感じられる場合には、気晴らしの方法を利用者と共に模索し実施を行なっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には玄関前やベランダに植えた花や野菜を愛でたりする。家族やスタッフの付き添いで墓参りや買い物に出かけたりもする。正月の初詣や春の花見、夏の唐船峡そうめん流し、秋のみかん狩りは事業所恒例の小旅行となっている。	日常的には散歩、家庭菜園、買い物同行、近くの公園、サロンなど戸外に出かけられるように支援している。季節ごとの外出レクリエーションやお祭り見学など普段行けないような場所にも全員で出かけ楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	衣類や食事、おやつなどがほぼ満たされており、なかなかお金を使う機会は少ない。それでも手持ちのお金を持つことで不安感が紛らわされる方などもおりそれぞれに対応がなされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望があれば電話の支援を行なっている。年賀状は自筆の文字を書いてもらうよう促している。		

鹿児島県 グループホーム加世田 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	スタッフは利用者が音や光、温度などの刺激によって居心地の良さが左右されることをよく理解している。	共用空間は広く、和室もあり落ち着いた雰囲気がある。大きなテーブルとソファがところどころに置かれ利用者は好みの場所でくつろげるように配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂のテーブルとは別に幾つかのソファが置かれており、それらが個別の指定席に自然となっている。それぞれが小グループでの交流を楽しんでいる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	箆笥やテレビなど本人や家族によって持ち込みがされている。いろいろと課題もあるものの、これまで過ごされた和式の雰囲気もお勧めしている。	出来るだけ、使い慣れたものを持ち込んでもらえるように入居時に話している。テレビ、タンス、テーブル、家族の写真、位牌、ぬいぐるみ、花、時計など好みのものが持ち込まれ居心地良く過ごせるように工夫している。身体状況、本人の希望により、畳敷きの居室もあり、冬はこたつを置いている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	9名に対して3箇所のトイレであるが状態に応じて場所が理解しやすい居室を選んでいる。夜間の放尿がされる方にはベッド脇にPTを置くなどの工夫も行なっている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

鹿児島県 グループホーム加世田 1ユニット

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

鹿児島県 グループホーム加世田 1ユニット

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない